



この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

2022年8月14日号

編集／毎日新聞社カスタマーリレーション本部



知覧特攻平和会館の一番奥の部屋に展示されている「桜を振る女学生」の写真＝鹿児島県南九州市で

残像～戦争の記憶と記録～

14日(日)＝1、3面

太平洋戦争が終わってから、今年で77年です。戦争を知る世代の人たちは減り、私たちの周囲からは「戦争の記憶と記録」が失われていっています。

戦時中、毎日新聞などの報道機関は戦争遂行を後押ししました。ただ、その過程で残された記者たちの写真や手記は、当時を知る重要な資料でもあります。

全5回の連載「残像」では、残された写真や遺族への取材などから戦時中の記者たちの足跡をたどり、今に通じる教訓などを探ります。

🔍 日本兵の戦争トラウマ

16日(火)＝3面

戦地で心の傷を負ったり精神を病んだりした兵士のため、日本軍は専門病院を作って治療していました。しかし表向きは「精神的にも強

い皇軍に戦争神経症は皆無」と、存在は隠されていました。戦後、多くの当事者は沈黙したまま亡くなりましたが、最近、日本兵の家族が

真実を知りたいと活動を始めました。病院に残るカルテの研究なども通じて、忘れられた存在だった「皇軍のトラウマ」の真相に迫ります。



帰国第1陣、高砂丸で別府に引き揚げたメレヨン島の将兵



岐路に立つ戦争体験者の語り部活動＝愛知県豊川市提供



語り部活動あと何年？

戦争を知る世代が自身の体験を語るのあと何年か。空襲などで1万人以上が亡くなった7都府県の語り部団体計8団体に毎日新聞

間がそう尋ねたところ、今後の活動年数は「あと5年」「あと10年」とした団体が半数以上を占めた。いよ

15日(月) 3面

特集ワイド 安倍政権とは何だったのか

16日(火)＝夕刊特集ワイド



安倍晋三元首相の銃撃事件から1カ月が過ぎた今、安倍政権のレガシー（遺産）を巡る議論が盛んです。東京大名誉教授で政治学者の御厨貴さん(71)＝写真

は、安倍氏が「保守」、とりわけタカ派のイデオロギーで自民党を染め上げた点を重視しているといいます。日本政治史の研究や政治家らに対

象にしたオーラルヒストリーで知られる御厨さんにインタビューし、改めて「安倍氏と保守政治」を語ってもらいました。

新毎日

150 2022年2月21日 毎日新聞創刊150年

毎小で連載する作家・辻村深月さんと「びじゅチューン！」のアーティスト・井上涼さんのオンラインイベント「ものがたりをつくらう」を7月30日に開きました。辻村さんのお題「この夏の○○を見る」。井上さんは○○をどう考えて絵にしたのでしょうか？まだご覧になっていないご家庭は、ぜひアーカイブをQRからご覧ください。夏休み後半を楽しめます！（斎藤広子）

